

千葉製油所 (2004年3月31日現在)

所在地	千葉県市原市五井海岸2
操業開始年月	1963年2月
面積	1,202,841m ²
従業員数	353名
原油処理能力	240,000バレル/日
ISO 9001 認証取得	1996.12.25 認証取得
ISO14001 認証取得	1998. 3.13 認証取得



◆千葉製油所について

当製油所は京葉臨海工業地帯が形成され始めた初期の1963年に操業を開始しています。現在日本有数の巨大工業地帯となった当地域において、千葉石油化学連合の中核工場として、そして当社の東日本における最大の供給拠点として、施設の増強、近代化を図っており、国内最大級の製油所の一つとなっています。このような環境下において社会的存在としての製油所との認識からすれば、「地域社会との共生」なしにはその運営は考えられません。そのためにはまず「地域から信頼される」ことが必須条件です。それには安全操業を確保すること、コミュニケーションにより相互理解をすることが必要と考え、地域との種々の活動を通じた対話を進めています。たとえば30年以上にわたり継続してきている飛燕杯争奪少年野球大会などの開催、市原市の代表的な祭りとなった「臨海まつり」の主催、地域美化活動として国道のボランティア清掃、小・中学校生の製油所見学および養護施設の訪問などを行っています。



千葉製油所所長
矢嶋 隆司

◆地域コミュニケーション活動

- 地元消防団との交流会 (5分団と企業10社が参加)
- 地元町会役員との交流会
- 市原市少年野球大会、市原中学校軟式テニス大会 (丸善石油化学との共催)
- 五井臨海まつり、五井臨海盆踊り (特別工業地区の6町会と近隣10社が主催)
- 養護施設「平和園」への慰問 (従業員からの募金により) ほか



2003年度製油所見学者数	36件 473人
無災害記録(延時間) (2003年12月現在)	15,702千時間
PCB保管状況	高圧コンデンサー 62台 高圧トランス 17台 その他

◆環境関連資格保有者数

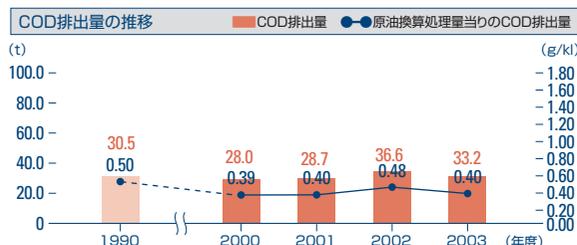
公害防止管理者(大気)	16名
公害防止管理者(水質)	21名
公害防止管理者(騒音)	4名
公害防止管理者(ダイオキシン)	2名
危険物取扱者(甲・乙種)	575名
高圧ガス製造保安責任者(甲・乙種)	268名
エネルギー管理士(熱)	19名
エネルギー管理士(電気)	6名
特別管理産業廃棄物管理責任者	3名
産業廃棄物施設技術管理者	2名
ボイラー特級	4名
ボイラー1、2級	330名

法規制物質

大気	物質	規制値	2003年度実績	
			最大	平均
	NOx (m³N時) (総量規制)	141.1	111.7	91.5
	SOx (m³N時) (総量規制)	189.7	148.1	111.7
	ばいじん(ボイラー) (g/m³N)	0.07	0.031	0.019

水質	物質	規制値	2003年度実績	
			最大	平均
	COD (kg/日) (総量規制)	223	142.9	90.8
	COD (mg/L)	25	3.9	3.3
	SS (mg/L)	50	9.6	6.0
	油分 (mg/L)	3	0.8	0.7
	窒素 (mg/L)	10	2.1	1.9
	リン (mg/L)	1	0.1	0.07
	フェノール類 (mg/L)	0.5	定量下限未滿	

環境パフォーマンス (エネルギーなど)



環境パフォーマンス (PRTR)

PRTR対象物質	単位	排出量				移動量
		大気	水域	土壌	合計	
2-アミノエタノール	kg/年	0	0	0	0	0
エチルベンゼン	kg/年	300	0	0	300	0
キシレン	kg/年	1,300	0	0	1,300	0
クレゾール	kg/年	0	0	0	0	0
コバルトおよびその化合物	kg/年	0	0	0	0	1,100
1,3,5-トリメチルベンゼン	kg/年	26	0	0	26	0
トルエン	kg/年	5,500	0	0	5,500	0
ニッケル化合物	kg/年	0	0	0	0	70,000
ノルフェノール	kg/年	0	0	0	0	0
ヒドラジン	kg/年	0	0	0	0	0
ベンゼン	kg/年	760	0	0	760	0
モリブデンおよびその化合物	kg/年	0	0	0	0	86,000
シクロヘキシルアミン	kg/年	0	0	0	0	0
ダイオキシン類	mg-TEQ/年	0	29	0	29	0

環境会計

項目	2003年度	
	投資額	費用額
①事業エリア内コスト		
公害防止コスト	84	1,340
地球環境保全コスト	4	2,783
資源循環コスト	19	346
②上・下流コスト		
グリーン購入によるコスト	0	0
製品の環境負荷低減コスト	998	14,317
製品の低硫黄化	965	12,307
ガソリンの有害物質代替	33	2,010
③管理活動コスト	7	176
④研究開発コスト	0	0
⑤社会活動コスト	0	1
合計	1,112	18,963

再生紙の購入費 1(百万円)

項目	2003年度
省エネルギーによる節約額 (コージェネレーションによる節約)	937
合計	937

項目	2003年度	
	環境負荷削減 (前年度-当年度)	
	濃度・原単位	負荷量
①事業エリア内の効果		
事業活動に投入する資源に関する効果		
エネルギーの投入	▲0.03 (kl-原油/千kl)	▲2,019 (TJ)
水の投入	▲14 (kg/kl)	▲1,891 (千t)
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果		
大気への排出		
CO2	0.21 (kg-CO2/kl)	▲121 (千t-CO2)
SOx	3.8 (g/kl)	98 (t)
NOx	0.5 (g/kl)	▲71 (t)
ベンゼン	0.00 (g/kl)	0.11 (t)
水域への排出		
COD	0.4 (g/kl)	69 (t)
廃棄物の排出		
産業廃棄物発生量	21 (g/kl)	530 (t)
産業廃棄物再資源化量	7 (g/kl)	245 (t)
産業廃棄物最終処分量	2 (g/kl)	136 (t)
②上・下流の効果		
製品の環境負荷低減効果		
製品の低硫黄化	(硫黄分:質量%)	(潜在SOx量:t)
ハイオクガソリン	0.0001	1
レギュラーガソリン	0.0000	1
ナフサ	▲0.0004	▲41
ジェット燃料	0.0094	97
灯油	0.0010	31
軽油	0.0191	675
A重油	0.0315	1,473
C重油	0.0004	▲5,801
LPG	▲0.0001	0
合計	▲0.0087	▲3,564
ガソリンの低ベンゼン化	0.0774 (容量%)	1,464 (t)
製品使用時のCO2排出量	▲0.0136 (t-CO2/kl)	▲1,528 (千t-CO2)